上に現はる、而して何故にこれが九姓回鶻と稱せられたりしや、九姓なるものは如何なる姓部を指せるものなりやに就いては、未だ細密なる研究の施されたるもの存せざるが如し、されど此の問題は余輩の見る所を以てすれば、當時の塞北の史上、種々の方面に亘りて極めて重要なる位置を有するものにして、仔細に攷究を加へざる可らざるものなりとす。

〔新唐書回鶻傳によれば、德宗の時（舊唐書によれば憲宗の元和八年）より、回鶻可汗の請により、從來用ゐたる回紇なる文字を廢め、代ふるに回鶻の文字を以てするに至れり、本篇に於ては混雜を避くるが爲に總べて回鶻と書し、只だ引用の文に於ては、悉く原本の記する所に從がへり〕

舊唐書廻紇傳によれば、開元中（兩唐書本紀によれば、開元十五年のことなり）回鶻が涼州都督王君㚟を殺し、安西諸國の貢路を絶つや、玄宗は郭知運等に命じて之を討たしめしかば、回鶻は退き③て烏德健山を保てりとし、之に續きて

有十一都督、本九姓部落、一曰藥羅葛、卽可汗之姓、二曰胡咄葛、三曰咄羅勿、四曰貊歌息紇、五曰阿勿嚕、六曰葛薩、七曰斛嗢素、八曰藥勿葛、九曰奚耶勿、每一部落一都督、破拔息密收一部落、破葛邏祿收一部落、各置都督一人、統號十一部落、每行止鬪戰、常以二客部落爲軍鋒、

と記し、新唐書には、可汗承宗の時、護輸なるものが王君㚟を殺したりしが、後突厥に走りて死し、その子骨力裴羅立ち、天寶の初め拔悉蜜を助けて突厥の烏蘇可汗を擊破し、突厥の故地に居り、牙を烏德鞬山と昆河との間に建て、

悉有九姓地、九姓者曰藥羅葛、曰胡咄葛、曰嗢羅勿、曰貊歌息訖、曰阿勿嚕、曰葛薩、曰斛嗢素、曰藥勿葛、